

地域幸福度(Well-Being) 指標について

国が進めているデジタル田園都市国家構想では、
「地域における豊かな暮らし」(Well-being)と「持続可能な
環境・社会・経済」(Sustainability)を実現し、地域で暮らす
人々の心豊かな暮らし（Well-being）の向上と、持続可能性
の確保を目指しています。

地域幸福度(Well-Being) 指標について

これまでのまちづくりでは、街全体の目指す価値観の明示が不十分であり、目的や取り組みも十分に整合はされていませんでした。

そのため、地域の**Well-being**の向上にあたり、共通の指標（**LWC**指標）を利用することで、価値観や目的をすり合わせ、それぞれの取り組みの円滑な連携を図ることができるとされています。

主観指標と客観指標について

LWC指標とは、Liveable Well-Being City指標の略で、
客観指標と主観指標のデータをバランスよく活用し、
市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を
指標で数値化・可視化したものです。

主観指標と客観指標について

主観指標

【アンケートによる主観データ】

- ・各自治体が集めたアンケートデータをもとにしている
- ・「幸福感（Well-being）」を算出したもの
- ・時系列での比較に強い

客観指標

【オープンデータによる客観データ】

- ・各種オープンデータ等をもとにしている
- ・「暮らしやすさ」を測定したもの
- ・分野間などの比較に用いる

主観指標と客観指標について

主観指標【アンケートによる主観データ】

幸福度・生活満足度を計る4つの設問

1

現在、あなたはどの程度幸せですか？

2

現在、あなたの町内（集落）の人々は、
大体において、どれくらい幸せだと思いますか？

3

現在、あなたの住んでいる地域の暮らしに
どの程度満足していますか？

4

自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい
気持ちでいると思う

+

3つの因子群

※因子群は合計24のカテゴリーに細分化されます。

生活環境

医療・福祉 買物・飲食 住宅環境 移動・交通 遊び・娯楽
子育て 初等・中等教育 地域行政 デジタル生活 公共空間
都市景観 自然景観 自然の恵み 環境共生 自然災害
事故・犯罪

地域の人間関係

地域とのつながり
多様性と寛容性

自分らしい生き方

自己効力感 健康状態
文化・芸術
教育機会の豊かさ
雇用・所得 事業創造

出所：デジタル庁ホームページ（地域幸福度指標Well-Being指標）

主観指標と客観指標について

客観指標【オープンデータによる客観データ】

3つの因子群

※因子群は合計24のカテゴリーに細分化されます。

生活環境

医療・福祉 買物・飲食 住宅環境 移動・交通 遊び・娯楽
子育て 初等・中等教育 地域行政 デジタル生活 公共空間
都市景観 自然景観 自然の恵み 環境共生 自然災害
事故・犯罪

地域の人間関係

地域とのつながり
多様性と寛容性

自分らしい生き方

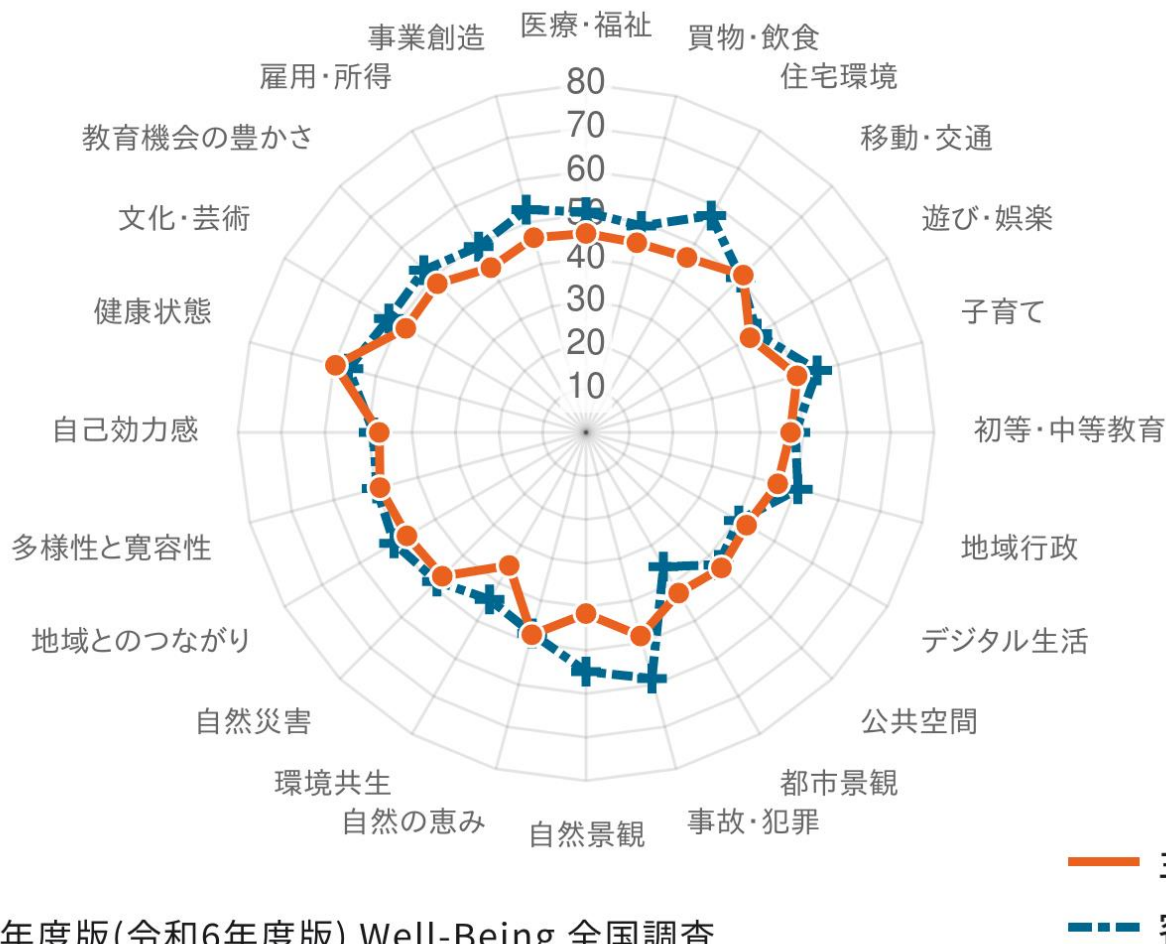
自己効力感 健康状態
文化・芸術
教育機会の豊かさ
雇用・所得 事業創造

出所：デジタル庁ホームページ（地域幸福度指標Well-Being指標）

主観指標と客観指標について

レーダーチャート（香芝市）

全国調査から香芝市民を抜粋した結果のため、
回答者数100名。
今回の市民アンケートで、主観データの調査
（51問）を実施したため、データ反映依頼。



カテゴリ・評価指標	主観データ	客観データ
医療・福祉	45.7	50.6
買物・飲食	45.1	49.1
住宅環境	46.4	57.5
移動・交通	51.1	50.3
遊び・娯楽	43.5	45.4
子育て	50.2	55.0
初等・中等教育	47.0	48.1
地域行政	45.6	50.4
デジタル生活	42.6	40.5
公共空間	44.0	43.0
都市景観	42.6	35.6
事故・犯罪	48.4	58.5
自然景観	41.6	54.9
自然の恵み	48.1	47.8
環境共生	35.3	44.3
自然災害	46.7	48.4
地域とのつながり	47.5	50.9
多様性と寛容性	49.0	49.8
自己効力感	47.5	48.8
健康状態	59.6	56.5
文化・芸術	47.8	52.3
教育機会の豊かさ	48.3	52.7
雇用・所得	43.7	49.3
事業創造	46.3	53.0

【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

地域幸福度指標の活用

SWOT表の考え方

	T (脅威)	O (機会)
S (強み)	(主観50以上、客観50未満を記載) 市民は強いと思っているが、客観的にはそうでもない ⇒ やがて劣化していくことが予想される	(主観と客観の偏差値50以上を記載)
W (弱み)	(主観と客観の偏差値50未満を記載)	(主観50未満、客観50以上を記載) 客観的には強いが、市民が気づいていない ⇒ 知らせめることにより認識が変わる可能性がある

23

地域幸福度指標の活用

この中から、優先的に取り組むべき政策領域を8つ程度選ぶ (✓)
⇒ まずは固有の「強み&機会」(SO) をどう活かすかから考える

都市環境の設問
自然環境の設問
地域の人間関係の設問
自分らしい生き方の設問

	T (脅威)	O (機会)
S (強み)	(主観50以上、客観50未満を記載) - 自然災害 - 教育機会の豊かさ	(主観と客観の偏差値50以上を記載) - 医療・福祉 ✓ - 遊び・娯楽 - 地域との繋がり ✓
W (弱み)	- 買物・飲食 - 初等・中等教育 - 地域行政 - 公共空間 - 都市景観 - 事故・犯罪 - 文化芸術	- 住宅環境 ✓ - 移動交通 - 子育て ✓ - デジタル生活 - 自然景観 - 環境共生 - 自己効力感 ✓ - 健康状態

意図的に8つ程度の政策領域を選ぶ
⇒ 政策フォーカスを明確化する

地域幸福度指標の活用

選択した8つの政策領域に関する政策介入効果（インパクト）の計画
 (★ = 8年後の理想のゴール、● = 3年後に達成すべき中間地点的なゴール)

